
君といつまでも。

藍色草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君といつまでも。

【Zコード】

Z8989F

【作者名】

藍色草

【あらすじ】

他校にもファンクラブがあるほどの二人組、檜山優と愛田洸。優は美少年。愛は美少女。でも二人には秘密があつた。実は・・・。男装に女装、はたまたトリップ。可笑しな二人の繰り広げるびっくり、でもほのぼのな物語。

プロローグ

「なあ、俺つて可愛いかあ？？？優

「めぢやくじやけひよ・・・。」

「「はあ・・・」

プロローグ・一人の諸事情

『「」はある「」で有名な中学・・塔条中。

ある「」と・・・

『キヤーーーーーー優様あああーーー』

『愛ちゃん・・今日もかわいらしげーーー』

そう、他校にもファンクラブがあるほどの二人組、檜山優ヒマヤウカと愛田洗アイダコウである。

優はモデルも顔負けのスタイルと顔をあわせ持つ美形少年。

愛は全国の女子が羨むであろう小柄な体系とアイドルに匹敵・・、いや、それ以上の顔で、こちらも美少女。

・・・だが、これは皆の憶測に過ぎない。

そう・・・

優は女で・・・

愛は男なのだ・・・！

そんな感じの一人の諸事情。

第一話

「女の子にモテる僕って・・・」

「男にモテる俺って・・・」

「不幸」

第一話・いつも不 幸に別の不幸へ他人には幸かも?」

『愛ちゃん、おはようござりますーーお荷物お持ちいたしましょうか?
??.』

「ううん、大丈夫。ありがと」

『か、可愛い。。』

『優様、おはようござりますーー』

「うん、おはよう。様付けなんて良いのに。。」

『お優しい。。』

『なにより、素敵。。。』

「おこ・・、あこつら全員づぜーんだけど・・。」

「ひひ、愛。もひとつ小さな声でーー。」

一人の会話はぼそぼそと行われている。

「だつてよー、男の俺に可愛いつて、しかも男どもがだぜー!?

お前だつて、女に格好いいつていわれてばっかで悔しくねーのかよ
ーー!ー

「だから、しーーー!ー

・・・別に嬉しい訳じやないけど。でも、愛が分かつててくれる
から、充分だよー!

ね??

「や、そつか。おおおお前が良いつつーんなら良いんだけどな。」

笑つた優に照れてどもりながら話す愛。

「あれ?大丈夫?顔真つ赤だよ?/?」

優は追い討ちをかけるように自身の額と愛の額をくつつける。

ちなみに優は決して鈍感ではない。

むじり敏感なのがいつこのかんじで、とくに自分のコトになると有り得ないほど鈍感なのだ。

以前、愛が真っ赤になつて「俺、お前のコト好きなんだけど・・・。」と言つたのに対し、

「うん、ぼくも好きだよ。」と答え、有頂天になりかけた愛に「だつて僕ら親友でしょ??？」

などと続けて一気に愛をどん底に落としたコトがその証拠だ。

ちなみに不意にそのコトを思い出し、意識されてないんだ、俺・・・。

と、この後愛が落ち込んで、優が慌てたとか、慌てなかつたとか。

優が愛と額を付けていたところを見た面々は

『キャー！！優様と愛ちゃんがああーーだれか写メ、写メを撮つてーー』

『顔を真っ赤にしてる愛さんも、可愛いなあ・・・。』

などといつてた。

第一話

「う、うわあ・・・

いい加減しつこい。

第二話・服装を変えるか変えないか

朝・皆に騒がれながら登校。

昼休み：皆に騒がれながら昼食。

放課後：皆に騒がれながら下校。

「つて、

俺ら学校でプライバシーもなにも無いじゃねーかあああーーー！」

ガ
ン
ツ

愛が壁を蹴る。

そう、これは所変わつて愛の部屋。

二人ともこの「コト」に関しては一年目だが、いまだになれないのだ。

「愛、ビリビリ……。」

「優~だつてさあ~・・・。」

「うーん・・・。あ~! そりだ!~!」

「な、何? ?

急に大声を出した優に驚きつつも話すよつと促す愛。

「じやあさ、僕らのコト、ぱらりかな「駄目。」・・・なんですか・・・?」

いいアイディアだと思つたのに・・・などと言つている優を尻目に
愛は考えていた。

「(今更元に戻る?) ふざけんな! 僕は男子用制服で優は女子用制
服? ! !

・・・いんじゃね? 優、可愛いじゃね~かあ! ! それが毎日拝める
のはいいかも。

はっ! ! でも待てよ? 優って素がいいから他の男がちかよんじゃ
か?

だ、駄目だ - - - - -) . . . つーコトで、駄目だ。」

「服が？？」

「え、ええ！？俺、口に出てた？？」

「うん。女子用制服がいいとか言つてたわあ、そんなに女子の服が着てたかったの？？」

「いや、ちがつ、ちよ・・・・・。」

「照れるな照れるな！僕もスカートよりズボンのほうが良いし。だから・・・

「ストップ！…違う！…俺が言いたかったのはこの制服が可愛いから他のよりはまだよなーっておもつて。別に好んで着てたい訳じゃない！…」

慌てて遮り喋りだす愛。

「なんだ、そういうことか。」

「（あ、あぶね………女装好きの変態とか思われなくて良かったあーーーーー）」

危機は去った、とばかりに汗を拭く素振りを見せる愛だが、

「あのや、久しごとに服を交換して街に行かない？？」

「・・・・・」

またもや優が提案したことに冷や汗をかく始末。

なんとかそのままの格好で行く」と妥協しても、いつかは愛だが、この先でもっと大きな不幸が待ち受けている」とほしるよしもなかつた・・・。

「買い物、楽しみだなあ ・・」

「・・・・・」

第三話

「え、うるさいでまいか・・・

「見てのとおり!」

女服売り場――。「

第三話・さつきの俺の苦労は・・・b y 愛

愛視点

「ねえねえ! これ似合つかな?」

似合つか。

「ああ」

「いれは?..?

サイゴーだよ、それ。

「いいんじゃね?」

「こればっさりかなあ？？」

お前のためにつぶられたみたいだな。

「買えば？」

「・・・これ。」

ふーん・・・ん？

「これ。ついて、いいい、これ着んのか？！」

そう、俺が指差したのはピンクのマジックスカート。

ゆ、優、これマジで着んの？！

・・・せべえ、いい。よすぎ。

でも・・・他の男の目が・・・！

「やめた方がいいじゃね？」

そう。俺はこんな言葉しかいえない。

本当は

『それは素敵だけど、それを着た優を他の男にはみせたくないから・

それはやめよう。』

とまで言いたい！！

でも、案の定優は傷ついた顔してる。

俺のせいだ。

何とかしなくひさしひ！

「なあ、優・・・

「わかつてゐよ。」

・・え？』

優、泣いてる？

「僕に、女らしい服が似合わない」とべり、「わかつてゐよ。・・・

でも、でもー愛なじお世辞でもほめてくれるって！

・・・・・そう思つてたから。

でも、ち、がつた、ね・。

・・『めん、それ帰るね・。』

ダッ

オレの馬鹿！－好きな子のこと傷つけ、小学生みたいじゃないか！

すぐ追いかけなくちゃ！

待てよ・。

行くなよ・。

優！－！

はあつ・・・いた！

「優！…！」

「…！…！…！」

優は俺たちがよく行く公園に居た。

「はあっ・・優！！」

逃げんなよ・・！・

謝るから。

第四話

「優、ほんとに『ゴメンナ』……

「愛、もうこいからむ〜。。。

あと、ありがとう」

第四話・凄く、凄くうれしかった。。。by 優

優視点

「……！
……愛

なんでだろ・・胸がズキズキする・・

「はあっ・・優！！

逃げんなよ・・・！」

愛・・・追いかけてきてくれたの？

気、使ってくれたんでしょ？？

「愛、もひ・・・

「いのんつー・・・」

・・・・・・え?」

「悪かった・・・。俺、お前の気持ちもわからぬにで・・・、最低だよ
な?」

愛・・・い・よ・・・

似合つてなかつたのはホント、だから・・・

「ホントじめん!」

あと・・・

えへつと、あれだ、その・・・

?

「愛?もうここでのこと・・・。

「元、

「元?」

「 $\bar{r}\bar{r}$, $\bar{r}\bar{r}$, $\bar{r}\bar{r}\bar{r}\bar{r}$, $\bar{r}\bar{r}\bar{r}\bar{r}$,

似囁いてたつ。-.-.」

アキラ

赤くなりながら少しついた愛は

いつもの女の子みたいな可愛い顔じゃなく

男子の顔に見えて

何故かドキドキした。

「・・・愛、ありがとーー！」

さつきまでの、ズキズキは消えて、代わりにドキドキ。

やめろって言われたとき、凄くショックだったけど

今似合つてゐつて言われて、本当にうれしかった。

不思議。

他の人に似合つてないって言われたとき、多少は傷ついたし、

似合つてゐつて言われたときまづれしかったけど今のとは比べ物にならない。

本当に不思議。

いつたいなんなんだろ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8989f/>

君といつまでも。

2010年10月9日17時42分発行